

事務事業 No./名 称	■サービス部門 環境-03 減量化資源化運営事業 □支 援 部 門						
主管課	ごみ減量・資源化推進担当	関連課	資源循環課				
分野名	生活環境						
目標 (目標値)	鎌倉市一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画の着実な進捗を目指す。						
人口等の データ	データ区分	24年度	23年度	22年度	備 考		
	人 口	177,224人	177,204人	177,161人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世 帯 数	79,669世帯	79,217世帯	78,812世帯			
運営資源 状 況	事業の対象者数						
	決算値(千円)						
	(国・県)						
	(負担金等)						
	(一般財源)	0					
	人員配置数	3.0	3.0				
	人件費(千円)	24,104	26,156				
事務事業 運営経費	協働の パートナー						
	総事業費(千円)	24,104	26,156				
	市民1人当 りの経費(円)	136	148				
	対象者1人 当りの経費(円)						
ベンチマーク (県内外自治体 や民間団体と の比較値)	団体名⇒						
指 標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(27年度)
ごみ焼却量	◎	目標値	—	—	39,745トン	38,523トン	29,923トン
◎目標を達成 ○目標に向かって前進 △横ばい ×後退		実績値	—	—	39,100トン	37,891トン	

評価のポイント

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

小事業名	H24決算値	評価 適切＝○、要改善＝△(評価の視点を参照)				⇒ 方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要											
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性		⇒	☐ A	☐ B	☐ C	☐ D	☐ E
	事業の概要											

事務事業の課題及び取組状況

H24年度の課題	平成27年度のごみ焼却量を30,000トン以下とするために、平成23年6月に策定した鎌倉市一般廃棄物処理基本計画ごみ処理基本計画(以下「ごみ処理基本計画」という。)の着実な進捗を管理するとともに、平成23、24年度の実績等を基に、ごみ処理基本計画の見直しを行う。		
課題解決のための取組	平成25年5月にごみ処理基本計画を見直し(再構築)した。引き続き同計画の着実な進捗を管理していく。	取組の結果	■解決 □未解決
未解決の課題	ごみ処理基本計画の事業以外についても、調査・検討を行っていく。		

中事業の評価と今後の方向性

中事業の評価と今後の方向性							
中事業の評価	適切○ 要改善△ (評価の視点を参照) ➡	①効率性	○	今後の 方向性	A: 充実・拡大 B: 現状継続 C: 改善・見直し D: 統合縮小 E: 廃止・休止	※□事業完了	
		②妥当性	○		↓ B	課長等名	
		③有効性	○			ごみ減量・資源化推進担当	
		④公平性	○			小池 忠紀	

(2面) 個別事業の評価

(単位:千円)

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	24年度予算	24年度決算値	評価⇒適切=○、要改善=△(1面の評価の視点を参照)			
					①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							
	主な個別事業							